岐阜工業高等専門学校			開講年度 令和03年度 (2021年度)			授業科目	応用物理				
科目基礎情報											
科目番号		0066			科目区分	専門 / 必	修				
授業形態		講義			単位の種別と単	立数 履修単位: 2					
開設学科		環境都市	□学科		対象学年	3					
開設期		通年			週時間数	2					
教科書/教	材	物理学基础	楚(原 康夫,学術図	書出版社,2016),	センサー総合物理	総合物理(高校物理研究会,啓林館,2021)					
担当教員		小川 信之	,安田 真,渡邉 尚彦								
到達目標	Ē										
①熱力学の ②力学・電 ③電磁気学 ④力学を微	圏磁気・光に 学の考え方を 数積分やべく	理解し、その原 こ関する実験を を理解し、その	を実施し考察するご の応用として具体的 て理解し、その応用	は問題を説明することができる。 な問題を説明する 日な問題を説明する 日として具体的な問	ことができる。	ができる。					
ルーブリ	リック										
			理想的な到達レイ	ベルの目安(優)	標準的な到達レ	ベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)				
評価項目1			熱力学の知識を して説明するこ	工学的問題に適用 とができる。	熱力学を理解し6割以上正確に角	、関連する問題を 解くことができる。	対対で関する問題を正確に解く ことができない。				
評価項目2			実施した実験から用して考察する。	う工学的問題に応 ことができる。		光に関する実験を 以上正確に考察で					
 評価項目3	;		電磁気学の知識を用して説明する。	を工学的問題に適 ことができる。	電磁気学を理解 を6割以上正確に 。	し、関連する問題 C解くことができ	電磁気学に関する問題を正確に解 くことができない。				
評価項目4				学現象を微積分や して正確に説明す	具体的な力学問 トルを用いて6割 とができる。	題を微積分やべク 削以上正確に解く	カ学問題を微積分やベクトルを用いて正確に解くことができない。				
学科の到	達目標項	目との関係	系								
教育方法	等										
概要		基本(運動では、1、	が、電磁気、熱など 2年で既に学習し	()、応用(物理工:	学、応用物理、現 用物理の観点より	代物理) を学ぶる 現実の現象との対	ことで、様々な現象を理解する。基礎 対応において再構築する。				
授業の進め	か方・方法	授業では2		理,基礎数学の知識物理BI,物理BII			35.0037 (1511).107 (30				
注意点		授業の内容講義では、	 字を確実に身に着け	「るため, 予習・復活 講義に参加する積活	習が必須である. 極性が重要である	。講義の内容は、	幅広い応用分野にわたるので、具体				
	は件・履修			. C 60 0 0							
	ィブラーニ		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応	ប់	□ 実務経験のある教員による授業				
1文未 1 四	<u> </u>	週	亚			国プレの到法ロ	—				
			受業内容			週ごとの到達目 	录				
		1週	実験(説明日) (ALのレベルC)			実験についての諸内容を理解して適用・評価できる。					
		2週	実験(単振子、 重) ・ (ALのレベルA)	カ加速度の測定 、*	ヤング率の測定	適切な実験実施を	を行う。				
		3週	実験(慣性モーメン 字則、運動三大法則	ィトの測定 、 力学的 リ)(ALのレベルA	的エネルギー保)	適切な実験実施を行う。					
	1stQ	4週	実験(レーザ光回材 ・ (ALのレベルA)	f、サーキットトレ	ーナー、光電管	適切な実験実施を行う。					
		5週	電荷、電場 (ALのレベルC)			電荷、電場を理解して適用・評価できる。					
		6週	電位、導体 (ALのレベルC)			電位、導体を理解して適用・評価できる。					
前期		7週	コンデンサ (ALのレベルC)			コンデンサを理解して適用・評価できる。					
		8週 「	中間試験			前期中間試験内容に関する問題を適切に解答できる。					
		9週	秀電体と分極 (ALのレベルC)			誘電体と分極を理解して適用・評価できる。					
		10週 ^[]	直流回路、オームの (ALのレベルC)	D法則		直流回路、オームの法則を理解して適用・評価できる。					
		11週	キルヒホッフの法貝 (ALのレベルC)	ll、CR回路		キルヒホッフの法則、CR回路を理解して適用・評価できる。					
	2ndQ	12週	電流と磁場 (ALのレベルC)			電流と磁場を理解して適用・評価できる。					
		13週	コーレンツカ、電流 (ALのレベルC)	記に作用する力		ローレンツカ、電流に作用する力を理解して適用・評価できる。					
		14週	電磁誘導 (ALのレベルC)			電磁誘導を理解して適用・評価できる。					
I	1	15调 は	胡末試験			1					

		16週	期末試験の解答の解説	
		1週	力と運動の復習	重力下の運動,円運動の問題の復習
		2週	万有引力 (ALのレベルC)	万有引力の法則を使って運動が説明できる。
		3週	熱量保存、比熱 (ALのレベルC)	熱について理解し、熱平衡問題が扱える。
	240	4週	熱のする仕事 (ALのレベルC)	熱力学第一法則を使って状態変化の説明ができる。
	3rdQ	5週	カルノーサイクルとカルノーの原理 (ALのレベルC)	熱サイクルの計算について習得する。
		6週	気体分子運動論 (ALのレベルB)	気体分子運動論を説明できる。
		7週	熱力学第二法則 (ALのレベルC)	熱力学第二法則を使って熱現象の説明ができる。
後期		8週	中間試験	後期中間試験内容に関する問題を適切に解答できる。
授 期	4thQ	9週	運動の記述 (ALのレベルC)	微分と積分を使って運動を表現できる。
		10週	カと運動の法則 (ALのレベルC)	運動方程式を微分方程式として理解して適用・評価できる。
		11週	仕事とエネルギー (ALのレベルC)	仕事とエネルギーをベクトル演算により理解して適用 ・評価できる。
		12週	回転運動 (ALのレベルC)	回転運動を微分の考え方を通して理解して適用・評価できる。
		13週	剛体運動 (ALのレベルC)	剛体の回転運動の法則を理解して適用・評価できる。
		14週	単振動 (ALのレベルB)	単振動を微分方程式を通して理解して適用・評価できる。
		15週	期末試験	
		16週	期末試験の解答・解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		授業週
	自然科学	物理		平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3	
			力学	物体の変位、速度、加速度を微分・積分を用いて相互に計算することができる。	3	
				簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値 問題として解くことができる。	3	
				周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる。	3	
				単振動における変位、速度、加速度、力の関係を説明できる。	3	
				等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力に関する 計算ができる。	3	
				万有引力の法則から物体間にはたらく万有引力を求めることができる.		
				万有引力による位置エネルギーに関する計算ができる。		
				力のモーメントを求めることができる。		
				角運動量を求めることができる。	3	
				角運動量保存則について具体的な例を挙げて説明できる。	3	
				剛体における力のつり合いに関する計算ができる。	3	
基礎的能力				重心に関する計算ができる。	3	
				ー様な棒などの簡単な形状に対する慣性モーメントを求めること ができる。	3	
				剛体の回転運動について、回転の運動方程式を立てて解くことができる。	3	
			熱	原子や分子の熱運動と絶対温度との関連について説明できる。	3	
				時間の推移とともに、熱の移動によって熱平衡状態に達することを説明できる。	3	
				物体の熱容量と比熱を用いた計算ができる。	3	
				熱量の保存則を表す式を立て、熱容量や比熱を求めることができる。	3	
				動摩擦力がする仕事は、一般に熱となることを説明できる。	3	
				ボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式を用いて、気体の圧力、温度、体積に関する計算ができる。	3	
				気体の内部エネルギーについて説明できる。	3	
				熱力学第一法則と定積変化・定圧変化・等温変化・断熱変化について説明できる。	3	
				エネルギーには多くの形態があり互いに変換できることを具体例 を挙げて説明できる。	3	
				不可逆変化について理解し、具体例を挙げることができる。	3	
				熱機関の熱効率に関する計算ができる。	3	
			電気	導体と不導体の違いについて、自由電子と関連させて説明できる。	3	

						電場・電位	について説明で	 きる。			3		
						クーロンの法則が説明できる。					3		
						クーロンの法則から、点電荷の間にはたらく静電気力を求めることができる。					3		
					Ī	オームの法則から、電圧、電流、抵抗に関する計算ができる。					3		
						抵抗を直列接続、及び並列接続したときの合成抵抗の値を求めることができる。					3		
						ジュール熱	ジュール熱や電力を求めることができる。						
		物理実験				力学に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説 明できる。					3		
						熱に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明 できる。					3		
				物理実験		波に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。							
						光に関する できる。	ご説明	3					
						電磁気に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。							
						電子・原子に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。							
						実験・実習を安全性や禁止事項など配慮して実践できる。					3		
	~~ \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	術(各	つ法、テー タ処理、考	術(各種)	訓定 デー	個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に取り組むことができる。					3		
	工学基礎	夕処3		・一力法、フ		共同実験における基本的ルールを把握し、実践できる。					3		
		察方法)		察方法)		レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。					3		
評価割合													
	前期実験	レポ	前期演	習	前期	中間試験	前期期末試験	後期中間試験	後期期末試験	後期記	課題	合計	
総合評価割合	20		30		50		50	50	50	50		300	
基礎的能力	能力 20		30		50		50	50	50	50		300	
専門的能力	と 力 0		0		0		0	0	0	0		0	
分野横断的能力 0		0		0			0	0	0	0		0	